

子どもの好きを応援しつづける幼稚園
～挑戦（好きなこと）から学ぶ、後伸びする力～

発表者：兵庫大学附属加古川幼稚園

真田 紗江

山元 信和

1 はじめに

本園は、昭和42（1967）年4月に創設し、仏教主義に基づいて「和」の精神を大切に個性や自立を尊重している。山陽本線東加古川駅北側に位置する兵庫大学のキャンパス内に園舎があり、2万3000㎡もの広大な敷地に広がる豊かな自然の中で五感を通して「感謝の心」「寛容の心」「互譲の心」を育むことを教育方針としている。現在、未就園児、3歳児、4歳児、5歳児の計255名が在籍している。

2 研究目的・設定理由

2020年5月に緊急事態宣言が発令され、幼稚園は一斉休園となった。コロナ禍ということもあり制限がある中でどのように子どもを育て、保護者を支援していくのかを模索してきた。そこで、どんな時代にも生き抜いていく力を育むことを目標に「子どもの好きを応援しつづける幼稚園」というテーマを掲げることにした。日々の保育の中でこれを実現できるように子どもたちと関わり、保護者と協力しながら保育を展開し、取り組んでいる途中段階である。以前から園で取り組んでいることも含め、現段階までの成果や保育者の気付き、実際の子どもたちの姿を考察していきたい。

3 子どもの好きを応援する取り組み

子どもの好きとは、時間を忘れて遊びに没頭し、夢中になって好きなことに取り組む姿のことである。一人ひとりの好きを見つけて応援していくためには、園だけでの取り組みでは継続することが難しい。家庭と連携し、保護者と共に子どもについて共通理解を図りながら取り組んでいけるように以下の3つことを行うことにした。

① 保護者と保育者の子どもに対しての共通理解を深める。

- ・アンケートをもとに個人懇談を行う（年3回）

（アンケート 内容）

- お子様に今後育ってほしい事、成長を願うこと
- お子様の好きな遊びや熱中していること

○一年間の流れ

4月(進級・入園)	・全家庭を対象にアンケートを実施し、個人懇談を行う。 ・子どもの好きを共通理解し、1学期に向けての目標を設定する。
7月	・1学期間の個人のドキュメンテーションを作成し、保護者に配布する。※例1 ・アンケートをもとに個人懇談を行い、保護者の願いや家庭での様子を聞き取り、子どもの好きを共通理解する。→2学期に向けての目標を設定する。 ※例1 個人のドキュメンテーション  ・1学期のはじめであった「野人園遊」ですが、本園の方ではどう思われるのか？と自分自身、本物に○○君から本物の写真を多く取ってもらい、トイレの暇をたたく様子やざいように書いておいたり、椅子を倒してやったり、そのことを褒められることでお友だちが喜ぶすることなどでお友だちが多くなってきたと考えています。○○君は嬉しいが大きいと思えます。地を転ぶことも少ないです。恐ることも多い。お友達に何回かあったお友だちもなかなかなく3学期のスタートとしてはとてもいいスタートが切れているのではないかと考えています。2学期は、仲の良すぎる○○君との自覚感を大切にしていきたいと考えています。
12月	・2学期間の個人のドキュメンテーションを作成し、保護者に配布する。 ・アンケートをもとに個人懇談を行い、子どもの好きについて共通理解をする。→3学期に向けての目標を設定する。
3月	・3学期間の個人のドキュメンテーションを作成し、保護者に配布する。 ・進級時には、旧担任と引き継ぎを行い、継続して好きを応援できるようにする。

4月～3月	・連絡アプリを使用して今週のねらい、先週の振り返りをドキュメンテーションにして保護者に配信する。
-------	--

- ② 連絡アプリを利用して保護者へ先週のクラスの様子をドキュメンテーションにまとめて配信する。

※例2 先週のクラスの様子をまとめたドキュメンテーション

たぬきってどんななお？

先週から生活発表会に向けていろいろな絵本を読んでいます。その中で子どもたちが気に入ったのが「ぶんぶくチャガマ」の絵本でした。子どもたちはたぬきの体に茶釜がくっついていることがおもしろかったようで、さっそく制作あそびで表現しようとしています。

今週のねらい：物語に親しみをもち、表現あそびを楽しむ。



先生！今たぬき作ってるねん！
「ぶんぶくチャガマ」の絵本貸して！



たぬきって どんな顔やろ？
動物園でも見たことないわ！



ねえ、ねえ、絵本のたぬきは
目のところが黒じゃないかな？

う～ん！こんな感じかな～？



たぬきは動物で毛が生えとるから
ギザギザのはさみで切ったらええやん！

わあ～すごいね！
本当に毛が生えてるみた～い！

やった～！やっとできた～！！
茶釜に化けたたぬきみた～い！

この絵本のたぬきさんにそっくりだね！

段ボールや折り紙を使って「ぶんぶくチャガマ」の絵本に登場する茶釜に化けたたぬきを作って遊んでいました。「たぬきってどんな顔かな～？」と近くにいた友だちと相談していたのですが、「動物園にはいなかったしな～」としばらく考えていました。絵本を見たり、友だちが考えたことを教えてもらったりしながら工夫して作っていました。できあがったたぬきを見て友だちから「絵本とそっくり！」と言われてもらって満足そうでした。生活発表会に向けてお話や絵に興味をもち、子どもたちが楽しみながら取り組めるようにしていきたいです。

- ③ 子どもの好きを取り入れながらの行事設定

- ・コロナ禍をきっかけに保育者主体の行事を見直し、子どもたちが主体的に取り組めるように生活の中で好きな遊びや子どもたちのアイディアを取り入れた行事設定を行うようになった。

4 実践事例

○5歳児23名のクラスのA児の事例

A児の性格・・・進級当初の4月は仲の良い友達B児がおり、その友達とは何でも話をするが、保育者や新しい友達には意思表示することが苦手であり、人前で話すことや行動することに対して控えめであった。

保護者の思い（4月・7月の面談）

- ・安心した場所では、自己主張できるが集団の中では自分を出せないことが多い。自分のことを集団の場でも発言できるようになってほしい。
- ・場所や人に慣れるのに時間がかかるので、幼稚園の間に少しでも自分のことを出せる幼稚園生活を送ってほしい。

4月・7月の面談からA児の目標（保育者と保護者の共通理解）

- ・自分の気持ちや思い、考えを保育者や友達に伝えられるようになる。
- ・初めての事にも挑戦しようとする気持ちを大切にする。

A児の姿（保育者の思い）

7月	・プールでの水着の着替えが上手いかずに、保育者や友達に言うことが出来ずに泣いて表現する姿があった。 (保育者は小学校に向けて意思表示できる場面をA児に持ってほしいと考える。)
9月	・少し友達も増え、自席の前で発言する姿は見られたが、人前で発言する姿は見られない。 (少しずつではあるが、自分を出せるようになっていくことを応援。)
11月	・音楽会でピアノ演奏を行った際、ピアノが得意で友達に教える姿が見られるようになった。 ・ハロウィンが終わった後から、クラスでAdoの「唱」を口ずさむ子どもやダンスをする子どもがいる。A児もダンスをする姿は無かったが、歌を口ずさむ姿は見られた。 (ピアノなど、保育者と一緒に前で手本を見せるように誘ったが断られる。誘い方に工夫が必要であると考え。)
12月	・お店屋さんごっこで「ガチャガチャ屋」をした際は、A児が作りたいたいと考えるキャラクターを作ると発表できた。 ・A児がAdoの「唱」の音を流すようにB児と共に保育者に伝える。音楽を流すと、ダンス教室に通っていないA児だが保育者に生き生きとした動きを見せる。 (ダンスを見て、クラスの友達の前でやってみるように声掛けをするが断られる。促し方を考える必要がある。)

1 月	(A 児のダンスを 2 月に行われる生活発表会の 1 パートにすることを考え、A 児に「先生に教えてくれないかな?」と、尋ねる。) ・保育者に教えるならと承諾をする。認められることで、B 児と一緒にダンスを友達の前で披露することができた。 
2 月	・生活発表会の練習から本番までクラスの先頭でダンスを引っ張っていく姿が見られた。それを見た保護者の方々からも大きな賞賛をもらい、このことが 1 つのきっかけとなり、積極的にやってみようとする姿が見られるようになってきた。 (好きな事を友達の前でやってみるきっかけをつくることができ、A 児の好きを応援できたと実感)

5 子どもの好きを応援する取り組みに対する反応

○保育者

- ・一人ひとりの好きを見つけ伸ばそうとする姿やどう声かけをするのかを保育者同士で話し合う姿や機会が増えた。
- ・毎週の各クラスのめあてや振り返りを見ることができ、他クラスの動きやめあてを把握でき、縦と横のつながりがスムーズになった。
- ・子どもに声かけをする間やタイミング、言葉の選択を深く考えるようになった。
- ・ドキュメンテーションを配信するにあたり、担任では把握しきれない戸外遊びなどの姿を保育者同士で伝え合い担任だけではなく、子どもたちを全保育者で見守り、育もうとする姿が更に見られるようになった。

○子どもたち

- ・自分のしていることを認められる経験が多くなり、次への意欲につながる姿がある。
- ・家庭でドキュメンテーションを見る機会が楽しみになり、園での様子を家庭で話をする機会が多くなった。子どもたちからも保護者がクラスのドキュメンテーションを楽しみにしているという声を聞くようになる。
- ・自分の好きな事を褒められたり、認められたりする経験を通して 5 歳児になるにつれて自分で考え行動する姿が多く見られるようになった。

○保護者

- ・楽しそうに幼稚園に登園する姿が増えたと言う声を多く聞くようになる。
- ・ドキュメンテーションで子どもたちの姿が詳しくわかり、家での会話が増えた。
- ・同じ行事でも、その年により子どもたちの姿に合わせて内容が変化していて楽しい。
- ・同じ学年の保育者だけではなく、他のクラスの保育者が名前を覚えてくれ、子どもの様子を伝えてくれて安心する。

6 まとめ

「子どもの好きを応援し続ける幼稚園」を目指し、色々な取り組みを行っている途中段階ですが、再度行事の見直し、子どもにとってどうあるべきか内容を精査し、これからも保育者同士や保護者の方と共に考えていきたい。

5項では、良い部分をピックアップしているが、保育者同士の子どもへの関わり方の共通理解、子どもの遊び込む力を引き出す言葉がけのスキル、一人ひとりが満足できるような応援体制が不十分な点が課題である。しかし、現在行っていることで目に見える成果や反応、確かな手ごたえを実感している。

子どもたちにも実際にやってみて、失敗することで得る学びを大切にしているように私たち保育者も試行錯誤しながら、幼稚園の実践を大切にしていきたい。